

第33回奈良県臨床細胞学会学術集会

日時：平成30年12月15日(土)

午後3時 ～ 5時30分

場所：奈良県医師会館

第33回学術集会担当世話人 藤原 潔 (天理よろづ相談所病院産婦人科)

一 般 講 演

座長 奈良市総合医療検査センター 倉内 佳菜
天理よろづ相談所病院 松田江身子

1. 豊富な粘液様間質を伴った腎盂尿路上皮癌の一例 (尿細胞診における泡沫状細胞の意義)
市立奈良病院 臨床検査室病理、病理診断科
○鎌倉佳子 (CT) 政 俊行 (MT)
吉田朋子 (CT) 小林史孝 (CT)
松山友彦 (CT) 高野将人 (MD)
島田啓司 (MD)

【背景】

尿中に泡沫状細胞が出現した場合、通常は組織球または腎癌の clear cell carcinoma を疑うが、尿路上皮癌においても同じような泡沫状細胞が出現する症例を経験したので、報告する。

【症例】

79歳女性。症例は、エコー検査、造影CT等の画像検査にて腎癌を疑われたが、尿路上皮癌との鑑別に尿細胞診が提出された。顕微鏡的血尿と多数の細菌・高度炎症を背景に、泡沫状の大型細胞を認め、腎癌 Clear cells の可能性があるものの、異型に乏しく組織球との鑑別も難しいため、鑑別困難と判定した。

後日、腎尿管全摘を施行された。左腎盂粘膜から腎盂尿管移行部にかけて広範囲に乳頭状隆起性腫瘍が認められ、組織学的に高度の粘液様物質を伴った浸潤性尿路上皮癌を観察した。通常の尿路上皮癌細胞に混在して、泡沫状の尿路上皮癌細胞を確認した。

【結論】

異型の弱い尿路上皮細胞が出現している場合で、尿中に泡沫状細胞を認める症例では、異型が乏しくても尿路上皮癌細胞の可能性を考える必要がある。

2. 当院で経験した膀胱上皮内癌の細胞学的検討

天理よろづ相談所病院 病理診断部
○高橋明德 (CT) 松岡直子 (CT)
松田江身子 (CT) 坂本真一 (CT)
藤田久美 (MD) 本庄 原 (MD)

膀胱上皮内癌 (PanIN-3) の細胞学的所見について検討した。対象は摘出標本にてPanIN-3と診断され、ENBD留置下の連続膀胱細胞診を実施した8例 (男性4名、女性4名、55歳-76歳、平均年齢71.1歳) とした。細胞像の比較対象として、良性病変13例 (慢性膀胱炎または自己免疫性膀胱炎7例, IPMA 6例) を用いた。細胞像の評価基準は細胞診ガイドライン2015年版 (消化器) を参照し、膀胱細胞診への応用が可能な「貯留胆汁細胞診の判定基準」に準拠した。その結果、PanIN-3群では細胞集塊の判定基準3項目 (不規則な重積、核の配列不整、集塊辺縁の凹凸不整) 全てを満たす細胞集塊を全例で認めた。個々の細胞の判定基準3項目 (核の腫大、核形不整、クロマチンの異常) を全て満たしたのは6例、核の腫大を除く2項目は全例で認められた。良性病変群では細胞集塊および個々の細胞の判定基準それぞれ3項目を全て満たした細胞集塊は認められず、特に核の飛び出しを伴った集塊辺縁の凹凸不整は全例で認めなかったことから、両者を鑑別する上で重要な所見である可能性が示唆された。

3. 尿細胞診における従来法とLBC導入後の比較 検討

大和高田市立病院 臨床技術科 (1)

済生会中和病院 病理診断科 (2)

奈良県立医科大学 病理診断学講座 (3)

市立奈良病院 病理診断科 (4)

○橋 郁真(CT) (1) 岡 彰子(CT) (1)

南加奈子(CT) (1) 西浦宏和(CT) (1)

堤 雅弘(MD) (2) 内山智子(MD) (3)

高野将人(MD) (4)

の低下につながったと考えられる。

【はじめに】

尿細胞診では細胞剥離が起こりやすく判定に影響することが多い。当院では従来、引きガラス法と二回遠心法を併用して標本を作製していたが、2016年3月からLBCを導入し、引きガラス法と併用している。今回はLBC導入前後の細胞診成績を比較検討した。

【方法】

2014年3月から2018年3月までに当院において行った尿細胞診は4,502例であった。そのうち組織診断がなされた332例について、二回遠心法とLBC法 (BD シュアパス™) との細胞診成績の比較検討を行った。

【結果】

LBC導入前に比べ導入後では、細胞診でclass IIと判定された症例のうち組織診でInvasive urothelial carcinomaと診断症例が優位に減少した。また、検体不適正例も減少した。しかし、細胞診でclass IIIと判定された症例のうち組織診で陰性と診断された症例が増加した。感度は改善されたが特異度が低下したことが分かった。

【考察】

LBC導入により感度が改善された要因として、細胞剥離の減少が考えられる。しかし、より多くの細胞を保持できる反面、変性したわずかな尿路上皮細胞を拾い上げてしまっていることが特異度